

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. クライミングスクール (7/7 三倉岳六合目 ABC エリア周辺) 報告
2. トレッキングスクール (7/21~22 比婆山) 報告
3. 初級沢登り研修会 (7/28 犬戻峡) 報告
4. 県民ハイキング (8/11 深入山) 報告
5. ありんこ活動 (5/25~26 韓国岳・開聞岳) 報告
6. 8月トレッキングスクール (8/24~25 広高谷・奥匹見峡) 報告
7. 岳連短信 (寄贈御礼、9~10月の予定)

1. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第4回 7/7(日)

山城：三倉岳 六合目 ABC エリア周辺

人数：18名 (スタッフ含)

3人一組でトップロープで確保された状態で擬似リードクライミングとリードビレイを旧Aフェイスノーマル、Bフェイスノーマルの2箇所で行いました。練習クラックを登り、立木でセカンドビレイの実施と、松下さんでバックアップをしたラッペルも実施しました。熱中症回避の為、休憩を多めに取りながら講習を行いました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 谷本 雅己)

7/7(日)のクライミングスクールに参加しました。私は昨年のスクールにも参加しましたので、二年生です。今回のレッスンは、ABCフェースで、(1)バックアップをセットしてのラッペル、(2)リードクライミングとビレイの練習、(3)ピッチクライ

ミングの場面でワンピッチ登攀後のセルフビレイ、フォロワーのビレイセット、ロープワーク、意思疎通のコールそしてビレイの一連の動作練習が行われ、とても充実した時間でした。

全てはマルチピッチでの登攀を安全にスムーズに行えることを目指してのものでした。昨年は内容がチンプンカンプンでしたが、2年目になって少し分かるようになりました。ただ、スムーズに確実に操作することはできませんでした。特に指摘されたことは、セルフビレイ時に下の状況をしっかり把握する為に身体を崖の際までもって行き、体重をセルフビレイコードにかけることでした。どうしても怖くておっかなびっくりな態勢で操作してしまいます。今回はこの点をしっかり意識して取り組みたいです。フォロワーをビレイしていたら実際に少しの落下が生じ、ビレイデバイスのフォローモードでビレイが働いてストップしましたが、私には状況が見えていなくて突然の落下でした。もう少し崖側に身体を置いてフォロワーの状況を余裕を持って確認できていたらよかったと反省しました。ピッチクライミングではパートナーと協力して登るわけですから、この点は重要ですね。

また、ピッチクライミングでは登攀の時間はとにかくビレイポイントでの時間の長短が重要になりますから、安全・確実はもちろんですがスムーズで短時間な動作が必要であり、一つの操作の後、次は何？その次は？と連続して操作していくことが求められます。コーチの方がこの点を意識させて指導されていたのがよかったです。怪しい操作には、無言で“？”、セルフビレイの“次は？”というふうに

考えさせながら学ばせるという指導に感謝しています。

昨年、始めてクライミングを経験して、その魅力に引き付けられました。ただ一方で危険なスポーツでもあります。そのため、安全なクライミングを身につける必要があります。そのためには、知識、技術はもちろんですが、パートナーとロープをつなぎ、お互いに注意し、確認し、指摘しあいながら安全を確保していくというコミュニケーション、連帯が重要なんです。それは、先輩から後輩へ大事な事を伝えていく縦方向の連帯にもつながっていると感じます。あるコーチの方が自分も先輩から教えてもらったから、今の自分がある訳で、喜んで指導に当たっているとおっしゃってました。ありがたいことです。今後とも御指導よろしくをお願いします。

(受講生 K)

4 回目のクライミング教室になる三倉岳。1 回目の天応烏帽子岩に比べて上達したのだろうか？

今回はトップロープ付のリードクライミングの練習、2 本のロープ、クイックドロウの使い方、以前教えていただいた事も含め、様々な事が頭を過る。そして混乱。

1 本目、途中のクイックドロウにロープをかけながら終点に向けて登る。終点に固定されている 2 つのカナピラにロープを掛け、そして降りる。

2 本目、同じように登った後、上部からのビレイ。以前習ったインラインエイトノット等を使うが、場所が変わるだけで、又も混乱。

3 本目、バックアップしたラッペル、これも以前習ったはずだが状況の違いだけでスムーズに運べない。

4 本目、トップロープが無いと思いながらの最後のトライ。少し上まで登った所からの 5m 位のトラバース。これができるのだろうか？ととにかくやるしかない。こわごとと 1 本目のピンへ、そして 2 本目、、下からの声を頼りになんとかロープ掛けが出来る。しかし、体も頭もクタクタ。ここで終わりにする。

今日の 4 本のトライで体中が痛い。変な体の使い方をしているのだろう。次回の三倉岳では又違う場所ら

しい、出来たら楽しんで終わりたい。

(写真提供 塩田)



2. トレッキングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第4回 7/20(土)～21(日)

山城：比婆山

人数：13名 (スタッフ含)

7/4(木)三篠公民館にて第4回目の机上講習をおこない沢登りについて講習しました。7/20(土)の計画では六ノ原から吾妻山の歩荷訓練の予定でしたが、雨天の為ロープワーク講習に変更しました。夕方、雨が止んだのでテント張りの講習後、各自でテントの設営をしました。夕食と7/21(日)の朝食は食事講習を兼ねて全員で炊事しました。その後、六ノ原川の支流にて沢登りしました。全員無事予定の行動ができました。(森本)

【感想文】

(受講生 曾我 能任)

トレッキングスクールとして、初めての宿泊(しかもテント泊)をとまなう山行ということもあり、いつも以上に準備(特に食事係として)に時間をかけつつ、果たして普段食事を作らない自分が、スタッフさんを含む参加者のみんなが満足できるような食事ができるのか?不安に過ごす日々でした。ところが、山行開催基準変更により夕食朝食が個食となった上に、食事講習会を開催していただけること(生徒の献立検討と食材準備不要)になり、楽しみでしかなくなりました。

1日目は吾妻山登頂を目指した山行計画でしたが、目的地のひろしま県民の森までの道中、雨が降ってきて、現地到着後も雨脚が強くなりつつあったせいか、急遽ロープワーク講習会を開催して、翌日の沢登りでのロープワーク実践に備えることに。(雷雨予報もあり恐らく想定して準備いただいたのだと思います。スタッフの皆様には感謝いたします。)現地の地形や状況とは異なるものの、はじめて装着するハーネス、スリングやカラビナを使用したいろいろなロープワークを教わり、非常に有意義な知識や経験を得ることができました。

その後、テントを張る場所の選び方や張り方まで丁寧にご指導いただき、皆でテントを張った後は待

ちに待った夕食。準備頂いた献立と食材に加え、スタッフさんが準備頂いた野菜類も含め、みんなで段取り表を元に分担して効率よく調理を行い、野外で作ったとは思えない料理を担当することができました。こちらも非常に大変ためになりました。そして夕食からその後の歓談まで、ほぼ初めてトレッキングスクールのみなさまと楽しく会話することができ、泊まりの山行ならではの時間をすごさせて頂きました。

2日目の朝はまだ明けきらない時間にうるさいくらいヒグラシの鳴き声に起こされ、心地よい朝の時間を過ごしつつ集合時間に炊事場に集合し、朝食調理。心なしか昨夜よりも手際よくできた気がしました。朝食後はテント撤収(苦手で一番遅かった…)と沢登り装備の準備をしていざ、沢登りへ!!

いつもはいかに水にぬれずに石の上を渡れるか、を考えるのですが、今回はそんなことは全く気にせず、沢の中をズンズン進み何か不思議な感覚でした。とはいえ、やはり足の付け根から上やザックを濡らすのは抵抗感がありましたが、いざ胸近くまで沢につかったり、ザックも水浸しになって以降は、開き直ってむしろ水の中へ突進していた自分に笑ってしまいました。(そこまでは実は沢登りではなく川に沿って下っていた練習と聞いて驚いて苦笑いもしてしまいました。)

そしていよいよ沢登り本番、とくに滝のように落ちてくる水を頭からかぶりながら、習いたてのロープワークを使って補助いただきながらのクライミング?には、正直きつかったですが、登り切った時の爽快感と達成感は今まで味わったことがない感慨深いものでした。

最後は沢から帰り道の遊歩道までの藪漕ぎによる登りも経験でき、大変有意義な山行でした。いろいろご準備いただきご指導いただいたスタッフの皆様、それに負けずに一生懸命ついていった同士の皆様、今回ご一緒できたことに非常に感謝いたします。ありがとうございました。まだまだ机上講習や山行講習は続きますが、これからも精進いたしますので、よろしく願いいたします。

最後に、記録係なのに写真 1 枚も撮れなかったことの大反省と、沢登りで思った以上に体力を消耗したのと虫刺されにより、手足がパンパンに腫れてしまったことは、次回対策したいです。

(写真提供 久保田 征治)



3. 初級沢登り研修会報告

(指導部長 森本 覚)

7/28(日) 人数：31名 (スタッフ含)

岩国市犬戻峡にて「令和6年度初級沢登り研修会」を実施しました。山歴に応じてクラス分けをし、経験値が豊富なクラス3が先行し、経験があまり無い

クラス 2 と初心者のクラス 1 はロープワークの講習後に入渓しました。クラス 1 のメンバーも F1 の様子を見て問題なしと判断しクラス 2 と合同で実施しました。みなさん核心部の F8 と F9 を登れましたので良かったです。天候の崩れもなく無事研修を終える事ができました。(森本)

【感想文】

(受講生 福山山岳会 三浦 京子)

福山山岳会に入会して 1 年 4 ヶ月、犬戻峡であった沢登り講習会に参加させていただきました。私は岳連の講習会に参加するのは初めてでしたが、9 年振りの沢講習だと聞き、凄くありがたいなと思いました。

当日は私達が到着した 7 時過ぎにはたくさんの車があり、教えてくださる方々も打ち合わせをされていました。

講習は皆で集合写真を撮影した後、沢登り初心者と経験者の 2 組にわかれ、私は 12 名程の初心者組での参加でした。沢に入る前にまず必要なロープワークの練習があり、フィギュアエイトオンアバイトでロープとハーネスを繋ぎ登る練習と、スリングでフリクションヒッチを作りロープ沿いに進む練習をしました。

その後いよいよ沢に入ってから実践です。水は冷たくとても綺麗で、街での暑さを忘れさせてくれます。F1 (一つ目の滝) で実際にロープを使い練習したあとは、ここが一番楽しい所だという F6 から F8 へ林道を歩いて向かいます。

東屋の側から再度入渓し、狭いゴルジュを進みます。その先にも滝の側を登る所、斜面をトラバースする所がいくつかあり、共にロープで安全対策をしてもらって無事遊歩道へ上がれる所までたどり着く事が出来ました。

途中、滝の側でロープの準備を待っている時には濡れたままだと寒い程いい風が吹いていて、持って行ったお湯が役に立ちました。下山後はとても暑かったので、滝の側を思い出し恋しくなりました (笑)

大勢の受講者だったので時間がかかる中でも、安全対策をしっかりして下さり、本当に感謝しています。ありがとうございました。冬には雪山講習もあるそうなので是非参加したいと思います。

(クラス 2 受講生 高橋 和仁)

やってみたくも思うもなかなか手が出せていなかった沢登り、岳連の研修会が開催されるとのことで早々に申込み、研修会前の道具揃えをネットや本、知人から教えてもらい最低限の装備を何とか揃え、研修会に臨みました。

場所は寂地峡/犬戻しの滝を目指すルートで、登山では自生カタクリで有名な寂地山で数度訪れたことのある場所、キャンプ場も整備され、高原の涼しいところでした。

今回の研修は久々の開催とのことで、参加者も 20 名以上、スタッフの方も 10 名以上と多くの方々が集まる盛況ぶりで、集合時には胸が高鳴りました。

開会のご挨拶、クラス分け、全体集合写真を終え、いよいよ研修の始まりです。

まずはロープワークから、中間エイトとフリクションヒッチの実習を行い、ロープを張った時の安全移動の方法を教えてもらいました。

その後、入渓し沢の中を歩く感覚を体験します。街中の猛暑がウソのように涼しく気持ちよいです。

F1 ポイントで先ほど実習した中間エイトで確保してもらい引き上げてもらうなど、さっそく事前のロープワークを実践する場面が出てきました。

しばらくすると、この先はしばらくゴーロ帯で面白味もないからということで、林道に上がり上流の東屋まで移動、東屋到着後は小休止、行動食でエネルギー補給して再入渓です。

胸まで水につかる場所では壁をへつり移動したりしながら遡行し、F6、F7 と進んでいきます。この時もロープワーク、縦移動は中間エイトで確保してもらい、横移動はフリクション、ビナ掛替で安全を確保して前に進みます。

人数が多かったせいか待ち時間も長く、途中日が陰った時には寒くなり、サーモスのお湯を飲む場面もありましたが、真夏にこのような体感ができるのも沢ならではと感じました。

最後は大きな滝つぼから F8 の左側面を登り終了。最後におまけでスラブ状の壁を遡行させてもらいましたが、足を滑らせ水の中にドボン！これも沢登りの

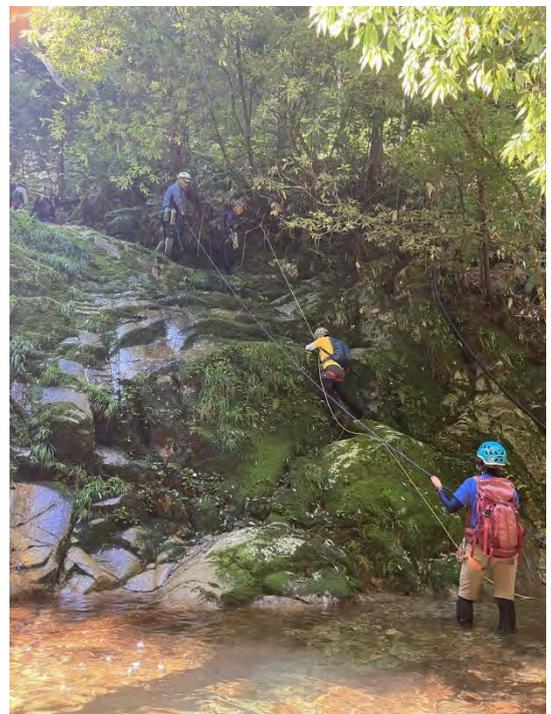
面白いところと感じている中、壁ではなく急流部分に挑戦する研修生もおられ、皆で声を出して応援し、最後まで盛り上がりました。

遊歩道に戻り、林道を経由して下山、集合場所に戻って閉会式後、解散となりました。

夏の暑い時期は、遠くの標高の高い山じゃないと汗だくで厳しいのですが、近郊の低山でも沢登りでは快適に山を楽しむことができると知り、これからも続けていきたいと思いました。もちろん安全確保の知識・技術向上が絶対ではありますが。

安全な沢登りの楽しさを教えて頂いたスタッフの方々、受講生の皆様、ありがとうございました。

(写真提供 高田 正剛)





4. 県民ハイキング報告

(理事長 豊田 和司、理事 松井 秀樹)

参加者の感想文と写真です。

【感想文】

(個人会員 金村 栄蔵)

怪我もあってなかなか山に関わる事が少なくなって久しいので、この県民ハイキングには出来るだけ参加したいと思ってる自分ですが、ここ数日の命に関わる危険な暑さに心配しながらの今日の参加となりました。

朝自宅を出発するときはそこそこ涼しかったのですが午前 10 時からの開会式や準備体操をする頃には日差しも強くなり、これからの山行の厳しさを予感させるものとなりました。

しかし、そこまで暑さや急傾斜を感じさせない西遊歩道から深入山山頂を目指すコースだった事もあり順調に歩を進めることができました。

なので、天気の良い山頂からの下山は急で滑りやすかった事あってより疲れてしまいましたが、尻餅つきながらなんとか下山することができました。その後、グリーンシャワー管理棟で美味しいアイスを食べ、憩いの森でゆっくり汗を流して無事帰宅できました。

なかなか歩くこともないので次回も参加したいと思います。





5. ありんこ活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文と写真です。

『チームありんこ』5月の山行

(個人会員 松井 良子)

5月は参加者7名で韓国岳・高千穂峰と開聞岳を目指します。

韓国岳は当初、大浪池登山口コースとしていましたが、その後の高千穂峰登山を考えると行程に無理があるとのアドバイスを受け、えびの高原コースへ変更です。

25日、早朝にトラブルが発生し、出発時間が9時半頃となる様子。えびの高原からの韓国岳登山、そこから池田湖近くの清美岳登山、温泉、長崎鼻からの開聞岳と夕陽、と変更しました。えびの高原の登山口からミヤマキリシマを見ながら急登を登ります。40分ほど歩くと硫黄山火口展望所へ到着。噴火の兆候はないものの、現在も活発な噴気活動を見ることができました。韓国岳登山道休憩所で昼食を取り展望が開けた登山道を進みます。山頂からは獅子戸岳、新燃岳、中岳、高千穂峰が一望できました。14時30分には下山予定でしたが1時間遅れで到着、ここで、さらに行程の見直しです。一度宿泊先へ鍵を受け取りに行き、この時点で日の入19時21分が迫っています。長崎鼻灯台公園で海越しに見る開聞岳は美しく、しばし写真撮影を楽しみました。

かいもん山麓ふれあい公園へ21時到着。暗い公園で、私の説明不足もあり道に迷いトラブルが発生。解決したのは22時半過ぎで、入浴、夕食。皆、日付が変わる頃にベッドで熟睡となります。

26日は早朝から開聞岳を目指します。昨日、怪我人が出て5合目にヘリコプターが来たとのこと。公園の方から「怪我無く戻ってきてください」との言葉を受け、公園を後にします。山頂には雲がかかり、流れも速く荒れ模様。二合目登山口からは樹林帯の中を歩きます。登山口から30分、体調不良の一人を私とMさんとで登山口まで一緒に下山。そこからペースを上げて登り返しました。先発の4人はペースを落として登山を続行。位置を確認するも、電波が入らず先発隊と連

絡が取れません。私達は合流すべく急ぎます。五合目の展望所を過ぎたあたりから岩場が出てきました。Mさんはクライミングを勉強中とのことで、苦手な私は足の置き場の参考になりました。仙人洞を過ぎたあたりからは風が強まります。ここで先発隊に合流し、一安心。6人で揃ってハシゴと階段を登り山頂へ。残念なことに眺望は望めず、写真撮影を済ませ、すぐに下山です。登ってくる登山者と離合の合間に休憩しながら5合目展望地へ、昨日行った長崎鼻方面が望めました。下山後、急いで広島へ戻る事態が発生し鹿児島中央駅へ向かい、一人を下ろしレンタカー会社へ、「えっ、ガソリン満タン？」なかなか簡単には解散できません。

2日間の九州遠征、行動計画はその場での調整が必要で、移動時間・行動時間は臨機応変に対応しないといけないと痛感しました。参加者の皆様、ありがとうございました。

【行動時間の報告】

5月25日(土曜日) 行動時間: 4時14分、距離6.0km
 韓国岳登山口 11時22分～韓国岳山頂 13時40分～韓国岳登山口 15時32分
 えびの高原 15時36分＝長崎鼻 19時10分＝かいもん山麓ふれあい公園 20時50分

5月26日(日曜日) 行動時間: 5時間54分、距離9.2km
 ふれあい公園 6時12分～開聞岳二合目登山口 6時25分～開聞岳山頂 9時17分～二合目登山口・11時56分
 かいもん山麓ふれあい公園出発 12時20分＝鹿児島中央駅到着・解散





6. 8月トレッキングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第5回 8/24(土)～25(日)

山城：広高谷・奥匹見峡

人数：10名 (スタッフ含)

8/1(木)三篠公民館にて第5回目の机上講習をおこない地図ソフトについて講習しました。8/24(土)広高谷で沢登りを実施しました。宿泊施設に到着後、雷雨となりました。8/25(日)前日の雨の影響で、計画の奥三段峡へは向かわず奥匹見峡の三ノ谷に変更しました。初級が登れる前半を登り終える頃、雨が降り出しましたが、予定の行動を終える事ができました。(森本)

【感想文】

(受講生 大下 真弓)

トレッキングスクール5回目は、広高谷・奥三段、1泊2日の沢登りの予定だった。

1日目は広高谷の沢登り、紙祖川に入溪、川の水は冷たいが、市内の蒸し暑さから解放されて気持ちいい、今年3回目の沢だけど、足元の石でバランス崩したり、苔のついた岩場で滑ったり、なかなかスムーズに歩けない。中間地点の辺りから、滝登りが始まり、深い沢では泳ぎました。大自然からのエネルギーをたくさん吸い込み、楽しいひと時でした。

後半の滝では、スタッフの方に安全確保していただき、受講生はチャレンジすることに、登る前に、足場を確認するといよいよアドバイスいただきました。

水しぶきであまり見えない、手元、足元、探り探りバランスとりながら登っていく、まだ行けると体を持ち上げた瞬間、滑り落ちた。左足に体重移動ができていないのに、動いたことで、バランス崩し水面までズルズル。運動能力の低さを痛感しました。その時、左肘を岩に打ちつけてしまった、指先は動く、激痛ではない、骨は大丈夫。

最後の滝の手前のトラバースが、一番怖かったが、スタッフの方のフィックスロープ設置、声掛けのおかげで安全に歩きました。最後の滝も、無事登れました。

宿泊先の「夢ファクトリーみささ」につくと雷雨、夜まで雨が降り、翌日予定していた奥三段峡は、奥匹見峡に変更となった。

2日目の奥匹見峡は、初心者がいけるところまでのコース。

前日の左肘打撲で、指に力が入らず、手で支えると痛みがあったが、無事歩くことができました。帰宅後、足にも指にも傷あり、沢歩きは楽しいけど、とても難しい。

経験豊かなスタッフの皆様には、たくさん助けていただきました。感謝です。

宿泊先「夢ファクトリーみささ」での神楽も素晴らしかったです。

ありがとうございました。今回も貴重な経験できました。

(写真提供 久保田 征治)



9. 岳連短信

1. 寄贈御礼

- 7/23 三原山の会『筆影』No. 533 (8月号)
7/30 福山山岳会『会報』8月号
(8/13) 広島やまびこ会『やまびこ』812 (8月号)
(9/9) 広島山稜会『峠通信』782 (8月号)

2. 9～10月の行事予定

- 9/13(金)～15(日) 中国高校登山大会県予選 (恐羅漢山)
9/21(土)～23(月祝) 第60回全日本登山大会 (新潟県)
9/24(火)～29(日) 連盟写真展 (NHKギャラリー)
9/29(日) 登攀研修会
10/12(土)～14(月祝) 第78回国民スポーツ大会SC競技(佐賀 多久)
10/13(日) 県民ハイキング(65) (宗箇山)
10/19(土)～20(日) 恐羅漢山登山道笹刈り(3)
10/24(木)～28(月) 大邱広域市山岳連盟を訪問
10/25(金)～27(日) 中国高校登山大会 (広島 恐羅漢山)
10/30(水) 全員協議会

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。